

# 『さっきゃま魂』

R6. 1. 12 第19号

発行人：校長 中山 末永

## 「感謝」を伝え・広げるために・・・

明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願い致します。



1月9日、第3学期の始業式。登校する子ども達の表情はとても明るく、楽しい冬休みを過ごし新たな気持ちで令和6年をスタートさせたことが分かりました。

出勤後、校門横のカウンタダウンボードの数字を「82日」に変えましたが、子ども達の「崎小での生活」は、もう51日しかありません。その数字を見て、「残り僅かになった学校生活を、崎小最後の学期にふさわしいものにしなければ・・・」という思いがこみ上げてきました。

そのような思いを込めて、始業式では次のような話をしました。

この校舎で、この仲間と、この先生方と一緒に過ごす時間はあまりない。今の自分に満足せず、「もっと頑張ろう」「もっとできるはず」という気持ちがあれば、まだまだ4つの心（自主・友愛・錬磨・勤労）を大きく成長させることができる。

これまでに、みんなが何度も使ってきた「感謝」という言葉は、崎小最後の1年にぴったりの言葉だが、その気持ちは、どうやったら伝わるのか。

地域の人に感謝の気持ちを伝えるために、「**ここにこ挨拶**」を頑張ろう。みんなの元気な挨拶で、地域の人にも元気になってもらおう。

お世話になっている方々に感謝の気持ちを伝えるために「**目標をもって努力**」を続けよう。みんなの頑張る姿は、見ている人に大きな感動を与える。

毎日過ごしてきた校舎に感謝の気持ちを伝えるために「**もくもく掃除**」を頑張ろう。崎小を卒業したたくさんの方が長く大切に使ってきた校舎、その校舎を最後に使っているみんなが隅々まできれいにしてほしい。

崎小150年目を過ごしているみんなには、「ありがとう」の気持ちを伝えたり、たくさんの人に広げたりする大切な役割がある。みんなが、「崎小で良かった」と思えるように、3学期も、笑顔いっぱい、全集中で頑張ろう。

冷え冷えとした体育館で話を聞くことは辛い時間だったかもしれませんが、子ども達の表情・視線からは確かな手応えを感じることができました。

今回、長崎新聞の取材があり、1月10日付の新聞に次のような記事が紹介されていました。

### 県内 小中学校で始業式

#### 3月閉校の五島・崎山小 最後の学期スタート

県内の多くの公立小中学校で9日、3学期の始業式があり、児童生徒が学年の締めくくりに向け、新たにスタートを切った。

児童数の減少に伴い、3月末で閉校する五島市下崎山町の市立崎山小(34人)では、中山末永校長が地域住民への元気なあいさつなどで感謝を表すことを期待。「崎山小150年目を過ごしている皆さんには、あつちの気持ちを伝え、広げる役割がある。3学期も笑顔いっぱい頑張っていこう」と述べた。

児童を代表して4人が3学期の目標を発表。5年の男子児童(11)は「何事も一生懸命取り組みたい。最後の学期、自ら行動し粘り強くやり抜く子どもになろう」と語り、全員で校歌を元気いっぱい歌った。

同市では大浜小、崎山中、奥浦中も3月末で閉校する。(角村亮一)



閉校前最後の始業式で校歌を元気いっぱいに歌う児童  
＝五島市立崎山小